

年間第27主日C

「私どもの信仰を増してください」

ルカ17・5-10

今日は、私の日常生活についての話から始めたいと思います。もちろん、私の生活すべてについてではなく、私が今一番時間をかけていることとお話しします。私にとって時間がかかるのは毎週の説教を準備することです。通常、月曜日に次の日曜日の福音書を読み始め、瞑想します。火曜日には、それを書き留めて、いつも丁寧に添削して下さる先生に送るようにしています。水曜日には、一緒に読んで練習します。そして木曜日には、それを音声とビデオに収録して、ユーチューブにアップします。このように、私は日曜日の説教に多くの時間を割いているのです。

今週も私はいつものように月曜日に福音書を読み始めましたが、私の心にパッと響いた言葉は「信仰」という言葉でした。福音の最初の言葉に、「私どもの信仰を増してください」とあります。これは使徒たちがイエス様に頼んだことです。

この言葉を黙想している時、私は自分の人生について、すなわち家族、信仰、使命について思い起こしました。私は幼い頃に洗礼を受けました。私は自分の意志で選択することなく、キリスト教の信者になりました。私の家族は、祖父母の時代からキリストの光を受けていました。当時、祖父母の住んでいたところではコロンバン外国宣教師が活動していました。コロンバン宣教会は、1918年に正式に設立され、その名前は6世紀にアイルランドでヨーロッパに宣教した聖コロンバンに由来しています。

彼らはミャンマー、日本を含む世界20カ国で活動しています。宣教会の使命は、教会の名において、行いと言葉によって、イエス・キリストの福音を告げ知らせることです。彼らのおかげで私の祖父母もキリスト教の信仰を得ました。私は3代目のキリスト教の信者です。

私は大人になってから、自分が受けた信仰を神様の贈り物として受け入れ、司祭になる決心をしました。私は司祭となることは神様の特別なプレゼントだと思っています。同時に、信仰をいただくだけでは不十分であり、それを人々に知らせることが私の使命であることと理解するようになりました。なぜなら、世界にはイエス様のことを知らない人たちがたくさんいるからです。

私の人生を振り返ってみた時、まず、私に信仰を伝えてくれた両親に感謝します。それは私の人生にとって最高の財産です。私はそれを保持し、美しくし、成長させ、他の人と分かち合っていかなければならないと強く感じています。

けれども、時々自分の信仰はとても弱いのではないかなとも感じます。ですから、今日、私は使徒たちと共に、「主よ、私の信仰を増してください、私を強い信仰を持っている人にしてください」と祈りたいと思います。

しばしば、私たちは自分の信仰が感情に左右されすぎていることに気づきます。例えば、日常生活の中で、嬉しいときは祈りやすいですね。ところが悲しいときや気が落ち込んでいるときは祈りにくいと感じますね。

逆に言えば、私たちはこの心地よさに満足しているのかもしれませんが、この状態から抜け出したいと思っていないのかもしれませんが。あるいは、信仰を深めることを望んでいないのかもしれませんが。もしかしたら、私たちは信仰において成長したくない、大人になっても子供のままでありたいと思っている、つまり子供の信仰にとどまっているのかもしれませんが。

ここで、私が何年か前に読んだある話を紹介したいと思います。

ある日曜日、母親が息子を揺り起こして、教会に行きなさいと言いました。しかし、何の効果もなかった。10分後、彼女は戻って来て、「子よ、すぐにベッドから出て、教会に行きなさいと叫んだ。」すると息子は答えた。「お母さん、私は教会に行きたくないよ。教会は本当に退屈だ。」母親は怒って息子に言いました。「あなたが教会に行かなければならない理由は2つあるのよ。一つは、日曜日には教会に行かなければならないこと、二つ目は、あなたがこの教区の司教だからです。」

そうですね！ 私たちの信仰は、時に伸び悩み、成長しないことがあるのです。真の信仰とは、弱く、罪人であるにもかかわらず、神様がいつも私たちと一緒にいてくださると確信することです。真の信仰とは、感情に左右されることなく、その時の気分、困難さ、さまざまな障害をのり越えていくことです。

さらに今日私は「良い信者になりますように」と祈りたいと思います。「信者になることよりも、信者であり続けることの方が難しい。」と言われます。'Becoming a believer' はもちろん大切ですが'Being a believer'の方も大切だと思います。

信仰は神からの贈り物です。神の恵みがなければ、私たちには信仰も何もありません。ですから、すべてが神の贈り物なのです。

信仰について知っておくべきもう一つの重要なことがあります。信仰は自分自身のためではなく、教会、社会、そして人々のために与えられていることです。私たちは神によって任務を遂行するために選ばれた僕です。私たちが受け取った信仰は自分のためではなく、他の人に奉仕するためであることを意味します。

私がここまで信者としても司祭としても成長させていただいたのは、何よりも神さまの助けと多くの皆さまのお祈りによるものです。これから、さらに神さまと皆さまの忠実なよいしもべとして生きていくことができますように、お祈りをお願いいたします。

皆さんが、そして私も神の与えられた使命に生きることができるよう、祈りましょう。

Eazun Naw San Vincent (Pime)